

令和元・2年度熊本県教育委員会指定

「子どもたちによるいじめ防止推進事業」

研究紀要

研究主題

自分や他の人の大切さを認め、豊かに学び合う児童生徒の育成

～いじめ防止につながる集団づくりと学習活動づくりの充実を通して～



令和2年11月20日(金)

主催 熊本県教育委員会
山都町立矢部中学校
山都町立矢部小学校

山都町教育委員会
山都町立中島小学校
山都町立潤徳小学校

目次

はじめに

I 研究の概要

- 1 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 研究主題の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (1) 研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (3) 研究の構想及び研究組織・・・・・・・・・・・・・・ 3

II 研究の実際

- 1 矢部中学校区の取組
 - (1) 2年間の研究経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) 生徒会・児童会リーダー研修・・・・・・・・・・・・ 7
 - (3) 矢部っ子いじめゼロ宣言に基づく実践・・・・・・・・ 8
 - (4) 学びと育ちの土台づくり
 - ①授業における「7つの共通実践事項」・・・・・・・・ 8
 - ②中学校体験入学（校種間交流）・・・・・・・・・・・・ 8
 - ③メディアコントロールの啓発・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - ④計画的な評価等の実施による実態把握と分析・活用・・ 10
 - (5) 家庭・地域への啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 2 各学校の取組
 - (1) 矢部中学校の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - (2) 中島小学校の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
 - (3) 矢部小学校の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - (4) 潤徳小学校の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

III 研究のまとめ

- 1 仮説1の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 2 仮説2の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 3 今後の研究の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

参考文献

おわりに

はじめに

文部科学省による、令和元年度児童生徒の問題行動・不登校生徒等生徒指導上の諸課題に関する調査結果から、全国のいじめの認知件数と1千人当たりの認知件数、ならびに重大事態の件数が前年度比で増加し、さらにいじめの解消率は低下していることが明らかとなりました。

周知のとおり、平成25年6月28日にいじめ防止対策推進法が公布され、その中で、いじめは、「いじめの防止等いじめを受けた児童等の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものである」とされています。また、児童等の尊厳を保持するため、いじめの防止等のための対策に関し、国、地方公共団体及び学校の各主体による「いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針」が策定され、現在まで様々な取組が進められています。

矢部地区においても同様の取組が進められる中、令和元年度から2年間、矢部中学校と中島小学校、矢部小学校、潤徳小学校が連携・協力し、熊本県教育委員会指定「子どもたちによるいじめ防止推進事業」の研究を進める機会をいただきました。この間、児童生徒が主体的にいじめ防止の活動ができるように、矢部中生徒会がリーダーシップを発揮し、児童会・生徒会の交流と各学校での集会活動を進めてきました。同時に教職員は、児童生徒が互いを認め合い、よりよい人間関係を広げる場を設定して、いじめ問題の解決に向け、行動できる風土づくりに努めました。さらに、全学校で共通のアンケートを実施し、取組の評価・改善を図り、いじめの早期発見・対応につなげるとともに、家庭や地域へ本事業の取組を発信してきました。

折しも、研究の途中からは「コロナ禍」により、さまざまな制限・制約の中で本事業を進めることになりましたが、本稿においてこれまでの研究の一端をご覧いただき、皆様方から忌憚のないご意見を賜り、今後の研究推進につなげたいと考えております。

最後になりましたが、本地域の研究推進にあたりこれまでご指導いただいた熊本県教育委員会、山都町教育委員会ならびに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和2年11月20日

山都町立矢部中学校 校長 富士川 晶三

山都町立中島小学校 校長 梅野 力

山都町立矢部小学校 校長 田中 元

山都町立潤徳小学校 校長 大西 克彦

I 研究の概要

1 研究主題

研究主題

自分や他の人の大切さを認め、豊かに学び合う児童生徒の育成
～いじめ防止につながる集団づくりと学習活動づくりの充実を通して～

2 主題設定の理由

(1) 校区の状況（令和2年5月1日現在）から

- 矢部中学校・・・生徒数164人，学級数8（うち特別支援学級2）
- 中島小学校・・・児童数37人，学級数4（うち複式学級2：中・高学年）
- 矢部小学校・・・児童数239人，学級数11（うち特別支援学級2）
- 潤徳小学校・・・児童数44人，学級数5（うち複式学級2：低・中学年，特別支援学級1）

本中学校区はこれまで統廃合を繰り返し、現在、3小学校・1中学校である。各学校とも統廃合によって校区が拡大し、スクールバスで通学をする児童生徒が多い。帰宅後の友達との交流も自由に行えない状況がある。各小学校では、中学校進学を視野に集団宿泊教室や修学旅行の合同実施など児童の交流を進めているが、入学後に新たな中学校生活に不安や戸惑いを感じる生徒もいる。

このように、本中学校区の児童生徒にとっては、学級・学校生活における人間関係を豊かにすることが重要である。そのためには、児童生徒が交流の範囲を広げ、互いのことを理解しながら、様々な体験的な活動や協働して探究する学習活動を通して、学級・学校の問題を自主的・協同的に解決していくことのできる集団づくりを進める必要がある。

(2) 諸調査（矢部中学校）の結果から

- <学校評価アンケート>令和2年1月実施
- ・「この学校の生徒でよかった」と回答した生徒・・・92.8%（肯定的解答）
 - ・「矢部中では、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」・・・93.5%（肯定的解答）
 - ・「いじめや差別をなくすために学んだり、自分にできる行動をしたりしている」
・・・92.0%（肯定的解答）
- <心のアンケート調査結果から>令和元年12月実施
- ・「学校が楽しい」・・・92.0%（肯定的回答）
 - ・「自信のあることや自慢できることがある」・・・77.9%（肯定的回答）
 - ・「誰かの役に立っている」・・・75.2%（肯定的回答）
 - ・「授業が分かる」・・・87.2%（肯定的解答 但し「分かる」は約30%）
 - ・「今の学年になっていじめられたことがある」・・・7件
- <問題行動調査>令和元年度
- ・いじめの認知件数・・・5件（内容：冷やかしからい、笑われる，無視）
- ※（各小学校の調査結果）中島小0件 矢部小53件 潤徳小17件

本町では、人権教育の取組により、人権課題を解決していこうとする意識や態度が育まれてきている。しかし、上述の調査やQ-U調査の結果、学習面や友人関係において自己肯定感が低い生徒が存在していることが分かる。また、自分を守るために友達の否定的な情報を流したり、安易に相手を傷つけてしまう言動をとったりする児童生徒もあり、近年ではSNSによるトラブル事例も発生している。

したがって、学校生活で多くの時間を占める各教科等（教科、道徳、特別活動等）の授業を中心に、児童生徒の主体性を重視しながら、自尊感情や対人交流の力、人間関係を形成する力、立場や意見の異なる他者を理解する力など、いじめを未然防止する資質・能力を育むことが重要である。

そこで、これらの実態とその分析から「自分や他の人の大切さを認め、豊かに学び合う児童生徒の育成 ～いじめ防止につながる集団づくりと学習活動づくりの充実を通して～」という研究主題を設定した。

3 研究主題の内容

研究にあたっては、以下の研究の仮説と視点に基づき、研究・実践を行うこととした。

(1) 研究の仮説

仮説1 集団づくり

学校生活において、よりよい人間関係を広げ深める活動の場を設定すれば、児童生徒が互いの存在や価値を認め合う態度が高まり、いじめ問題をはじめ身の回りの問題を自主的・協働的に解決していく集団を育むことができるであろう。

仮説2 学習活動づくり

各教科等の授業において、児童生徒が互いのよさや可能性を發揮できる学習活動づくりを行えば、児童生徒がともに学び合うことへの充足感が高まり、いじめ問題などの課題に向き合い、協働して解決していく行動力が高まるであろう。

(2) 研究の視点

① 仮説1（集団づくり）について

- ア いじめの防止を目指した児童会生徒会活動の活性化
 - ・いじめ防止スローガンの作成
 - ・小中合同リーダー研修の実施
 - ・全国いじめ問題子供サミットへの生徒代表の参加，報告
- イ 心の居場所としての学級・学校づくりの推進
 - ・人間関係づくりに関する学習活動（SGE, SST, ピアサポート等）
 - ・異学年集団による活動の充実（委員会活動，縦割り班，集会等）
 - ・児童生徒同士や，児童生徒と教職員の信頼関係を基盤とした学級経営
- ウ 学校間・校種間の交流
 - ・修学旅行や宿泊教室の合同実施
 - ・中学校体験入学等における交流
- エ 計画的な評価等の実施による実態把握・分析と活用
 - ・Q-U，心のアンケート，学校評価アンケート

② 仮説2（学習活動づくり）について

- ア いじめの予防や未然防止につながる学習活動づくり
 - ・「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導や評価方法の改善
 - ・児童生徒の生活に生かされる人権学習の展開
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- イ 学習に対する効力感（分かる，できる）の向上
 - ・小中連携による学力充実の共通実践
 - ・家庭学習や補充学習における個に応じた課題設定や評価活動の充実
 - ・互いの学びや努力を認めることのできる環境づくり（掲示・通信等）

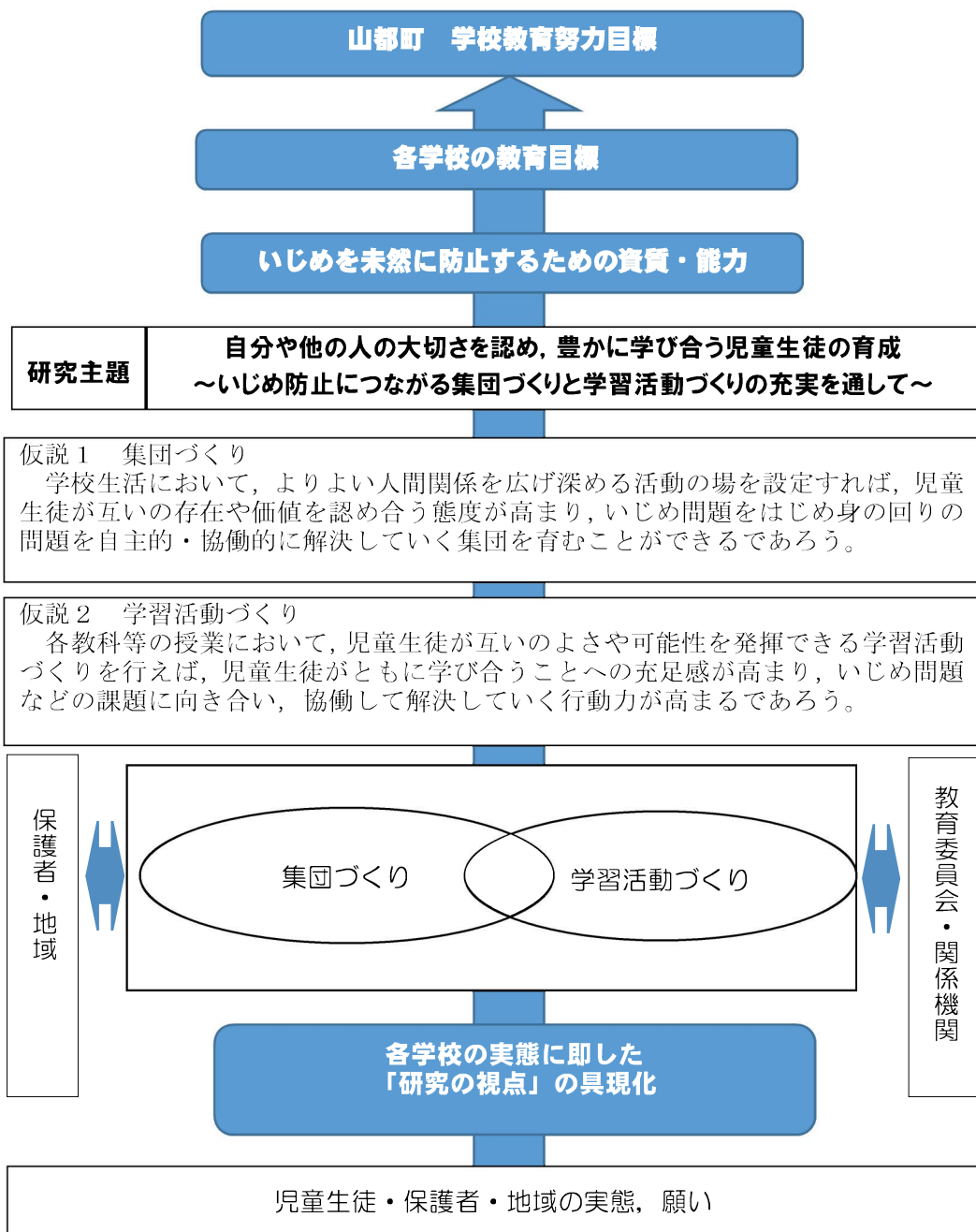
③ 家庭・地域との連携

仮説1・2に係る教育実践の効果を高めるためには、児童生徒が日常生活を送っている家庭や地域が、学校の取組を肯定的に受け止めることが必要不可欠である。

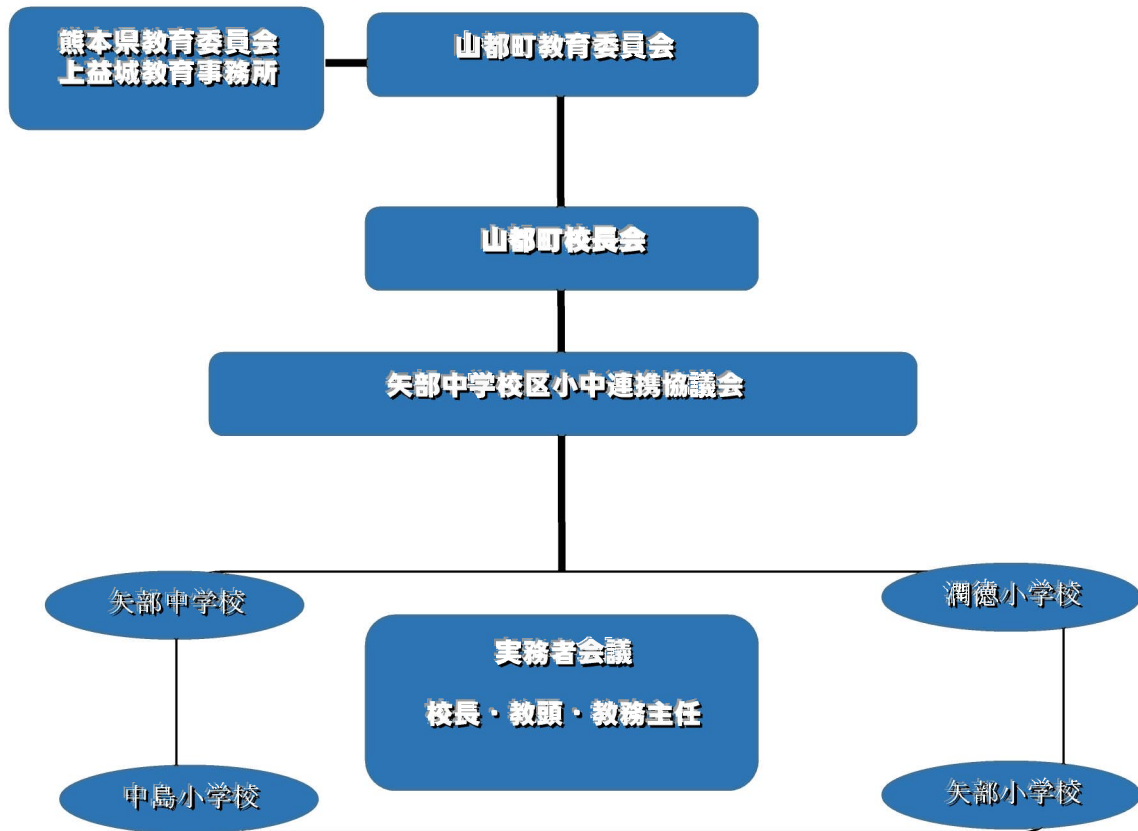
- ア 保護者への啓発活動
 - ・ SNS やメディアの使用，コントロールについての啓発
 - ・ 基本的な生活習慣や家庭学習の習慣化に向けた取組
 - ・ 学校いじめ防止基本方針等による，いじめの定義や対応等への理解
- イ 学校の取組等の積極的な情報発信や評価
 - ・ いじめ防止に関する取組の紹介
 - ・ 学校評価アンケートへの「いじめ防止」に関する項目の設定

(3) 研究の構想及び研究組織

【研究の構想】



【研究組織】



II 研究の実際

1 矢部中学校区の取組

(1) 2年間の研究経過

研究の構想に基づき、矢部中学校区の小中学校が連携しながら、資料1、2のように2年間にわたり研究を進めてきた。

(資料1 令和元年度の経過)

時 期	内 容	備 考
5月23日	子どもたちによるいじめ防止推進事業第1回連絡協議会	参加者3名
6月20日	Q-Uアンケートの実施（各学校）	各小学校5・6年児童及び中学校全生徒
6月21日	第1回小中連携協議会及び第1回実務者会議開催（研究計画及び研究活動計画について）	参加者8名
7月11日	第2回実務者会議（年間計画の確認、小中共通アンケート「見つめカード」及び小中合同リーダー研修会の内容検討）	参加者6名
7月18日	小中共通アンケート「見つめカード」の実施	各小学校5・6年児童及び中学校全生徒
7月29日	町学校同和教育研究大会（人権教育）	各学校全職員参加
8月23日	いじめ防止推進事業連絡会（上益城教育事務所、山都町教育委員会、各小中学校の研究進捗状況の確認）	参加者10名
9月20日	先進校視察（宇土市立住吉中学校）	住吉中・参加者2名
9月27日	先進校視察（南小国町立南小国中学校）	南小国中・参加者3名
10月17日	第3回実務者会議（小中合同リーダー研修会の内容及び担当の確認）	参加者6名
11月9日 ～10日	小中合同リーダー研修会（豊野少年自然の家）	豊野少年自然の家 児童生徒20名（矢部中8名、3小学校各4名） 職員7名
11月18日	いじめについて考えるハートフル集会の実施	矢部中全校生徒151名
11月20日	第13回「いじめ防止標語コンテスト」への参加	矢部中全校生徒151名
12月17日	第4回実務者会議（小中合同リーダー研修会の反省、各校実践内容と今後の方向性の確認）	参加者6名
1月19日	熊本県人権子ども集会への参加	参加者4名
1月25日	令和元年度「全国いじめ問題子供サミット」参加	生徒1名職員1名
2月4日	子どもたちによるいじめ防止推進事業第2回連絡協議会	参加者4名
2月18日	第5回実務者会議（サミット報告、今年度反省、次年度への志向）	参加者7名

(資料2 令和2年度の経過)

月	計 画	備 考
4月	研究の構想，研究計画作成	実務者会（事務局）
5月	第1回小中連携協議会兼実務者会議（研究の構想，研究計画，小中連携組織，共通実践事項，取組の評価等について確認）	小中連携協議会・実務者会 （校長・教務主任）
6月	「心のきずなを深める月間」の取組 研究紀要の作成計画と小中合同リーダー研修計画の立案	各学校 実務者会（教務主任）
7月	第2回実務者会議（紀要の作成分担，小中合同リーダー研修について） 実態調査（Q-U①，心のアンケート等）	実務者会（児童会・生徒会 担当含む） 各学校
8月	評価1（学校評価・教育評価） ※共通項目の設定 研究紀要作成 管内生徒会リーダー研修 小中合同リーダー研修（共通実践事項と自校の取組の進捗及び今後の方向性について） 研究紀要の進捗確認	中学校生徒会 小中学校代表 児童会・生徒会
9月	検証授業（教科，道徳，学活）と授業研究会	各学校
10月	第2回小中連携協議会兼第3回実務者会議 （研究計画の確認と研究発表会について） 評価2（Q-U②）	小中連携協議会・実務者会 （校長・教務主任） 各学校
11月	第4回実務者会議 研究発表会（11/20） 公開授業（中学校），生徒会発表，各小学校児童会による発表	実務者会（教務主任） 矢部中学校 生徒会・児童会
12月	評価3（心のアンケート・教育評価） 第5回実務者会議（総括1，研究紀要原稿完成） 矢部中生徒会リーダー研修	各学校 実務者会（教務主任） 矢部中生徒会
1月	スクールロイヤーいじめ防止授業 第6回実務者会議（評価と検証） 全国いじめ問題子供サミット（Web開催）	矢部中学校 実務者会（教務主任）
2月	評価4（学校評価） 第7回実務者会議（全国いじめ問題子どもサミット報告と総括2） 事業報告及び決算書作成	各学校 実務者会（教務主任） 実務者会（事務局） 町教委
3月	第3回小中連携協議会（事業報告と次年度の志向） 第8回実務者会議（次年度の計画）	小中連携協議会・実務者会 （校長・教務主任） 実務者会（教務主任）

(2) 生徒会・児童会リーダー研修

令和元年11月9日(土)と10日(日)に熊本県立豊野少年自然の家で実施した。矢部中校区の児童会と生徒会が連携する組織として20名の児童・生徒が参加した。今後の児童会・生徒会活動においていじめ防止に取り組むのはもちろん、様々な活動や研修を通して、互いの親睦を深めるとともに、諸活動の中心となって活躍するリーダーを養成することをねらいとした。実務者会議に各小中学校の児童会・生徒会担当が加わり、研修の企画と打ち合わせを行った。また、宿泊研修全体の準備や当日の司会進行は中学生が担当し、自分たちで研修をつくり上げていく意識を高めた。

研修では、まずリーダーとしての姿勢や在り方について、「自分らしいリーダー像」を模索することで、自分が目指す姿を明らかにし、小中ならびに小中交流による「仲間づくり」として、SCE及びSSTを実施した。中学生のリーダーシップが、小学生にとって良い刺激になり、研修後各小学校の集会活動に生かされた。次に、「みんなが楽しいと言える学校にするために」をテーマに小中のグループで協議し、「いじめとは何か」「いじめのない学校にするために生徒会(児童会)としてどんなことができるのか」について話し合い、全体で意見を共有した。さらに、各学校のいじめ防止につながる実践発表を行った。その後、矢部中校区全体で取り組む共通実践事項を決めた。「明るく元気な声であいさつをしよう」「友だちのよいところを見つけて伝えあおう」「相手の気持ちを考えて発言・行動をしよう」という意見にしばりこまれ、この3つを「矢部っ子いじめゼロ宣言」として、各学校で宣言に基づいた活動をしていくことにした。

この研修は本年度も継続し、令和2年8月6日(木)に合計20名の小中学生代表が矢部中に集い、実施した。

研修では、まず昨年度の研修から取り組んできた各学校の実践報告を行い、「矢部っ子いじめゼロ宣言」に基づいた活動の発表を行った。お互いの取組を知ることによって、各学校の活動の共通点や特色を学ぶことができた。その感想をふせんに記入し学校ごとにまとめ、各学校に持ち帰り、改善へとつなげた。次に、「矢部っ子いじめゼロ宣言」をどのように具現化していくかについて協議を行った。スローガンごとに3つのグループに分かれ、各学校の実践発表の内容を参考にしながら、共通実践事項の提案内容を「企画書」として考え、提案し、より活性化させるための意見交流を行った。この各グループから出た企画書を参考に矢部中校区の各学校で日々共通実践を行っているところである。

リーダー研修の様子



リーダー研修(小中合同グループ会議)



矢部っ子いじめゼロ宣言 のぼり旗



令和2年度リーダー研修にて
(各学校の実践へのアドバイス)



昨年度の研修後、児童・生徒並びに教職員も、この合同リーダー研修をとおして児童会・生徒会が主体的に活動するようになったのを感じており、本年度の研修も楽しみにしていた。昨年度の研修で決定した共通実践事項「矢部っ子いじめゼロ宣言」に基づき各学校で取組を継続しており、昨年度よりも内容も深まり、各小中学校のいじめ防止の機運が感じられた。

令和2年度リーダー研修を終えて



(3) 矢部っ子いじめゼロ宣言に基づく実践

リーダー研修で共通実践事項とした矢部っ子いじめゼロ宣言を全校生徒や保護者、地域の人に発信していくためにのぼり旗を作成し、校内・校外に設置した。また、それに基づいた実践（あいさつ運動、三秒礼コンクール、ありがとうメッセージカード、私のいじめゼロ宣言など）を各学校が企画し、児童集会や生徒集会で提案しながら実践を重ねた。

全国いじめ問題子供サミットでの発表

さらに、令和2年1月25日（土）に文部科学省で行われた全国いじめ問題子供サミットに参加し、矢部中学校区が一体となった本取組について、ポスターセッションをとおして発信した。また、サミットでは「私たちが考える『令和の時代のいじめ対策』」をテーマにいじめが起る原因と防止策について考え、グループ協議と意見交流を行った。矢部中学校の生徒会長は「お互いの良いところを認め合い、尊敬し合うことがいじめが起きない環境づくりにつながる」ことを学び、今実践している矢部っ子いじめゼロ宣言の取組を継続していくことが、各学校のいじめ防止につながることを再確認し、その後の集会等で呼びかけを行った。



(4) 学びと育ちの土台づくり

① 授業における「7つの共通実践事項」

仮説2における、児童生徒が互いのよさや可能性を発揮できる学習活動づくりを行うために、授業をとおして、児童生徒の主体性を重視しながら、自尊感情や対人交流の力、人間関係を形成する力、立場や意見の異なる他者を理解する力を育成してきた。山都町教育委員会とも連携し、令和2年度は、授業における7つの共通実践事項を設定し、取り組んでいる。

② 中学校体験入学（校種間交流）

各小学校との交流を図り、小学6年生が中学校入学に対して、不安や心配を持つことなく、4月からの新学期を迎えてもらうために、3学期に中学校体験入学を実施してきた。学校職員による学校説明だけでなく、生徒会執行部が中心となって、中学校と小学校との違いや制服のこと、さまざまな行事などに

授業づくりの視点（自己評価チェック表）

ズエックリスト(Aよりできた B目標できた Cあまりできなかった Dできなかった)	評価
1 児童生徒に「問い(疑問や矛盾)」が生まれる導入工夫します。	
2 本朝が目指すゴールを「めあて」に示します。	
3 全員に課題解決の「共通し」を持たせます。	
4 本朝の目標を達成できたかを評価します。	
5 何を学んだかを実感できる「まとめ」を行います。	
6 「わかった」「もつとやってみよう」につながる「振り返り」を行います。	
7 「もつとやってみよう」という気持ちや家庭学習につながります。	
授業づくり	児童生徒の気づきや間違いの中に良さを認めたり、良かった活動などをほめていきますか。
学習態度	私語や手遊びをせずに、先生や発表する人に体を向けて話を聞くように指導していますか。
日常指導	拍手を見て、自分の言葉で伝えるように指導していますか。
	元気にあいさつするように指導していますか。
教育環境	生徒の作品をはじめ、掲示物が整然と掲示されていますか。
	掲示物には、児童生徒の意欲を喚起する書き込み等、工夫をしていますか。
連携	教室のゴミ等の清掃やロッカーの整理するよう指導していますか。
	生徒会やPTとの連携打合せをしていますか。

ついてクイズ形式などの工夫を凝らし、児童参加型の会をつくった。また、矢部っ子いじめゼロ宣言についても説明し、矢部中学校ではいじめをなくす取組に力を入れることを生徒会長がアピールしていった。参加した保護者や児童からは、「中学生の説明は、わかりやすく、楽しめた」「先輩が優しそうで、中学校に行くのが

体験入学における生徒会の発表

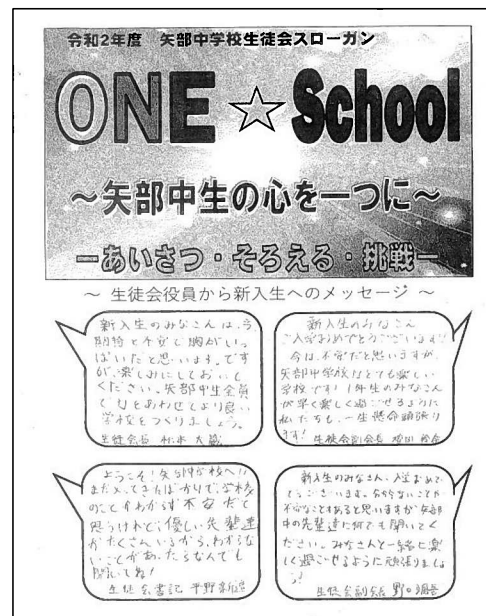


楽しみになった」などの声が聞かれた。例年矢部中学校主催で開催してきたが、実務者会議で内容を検討し、周知を図り、実施後の評価と次年度に向けての改善を図るようにした。

さらに、新入生用の春休みの課題の中にも、学習や中学校生活への不安を取り除く一助となるよう、生徒会がメッセージを贈った。

新入生に向けた生徒会からのメッセージ
(春休みの課題に記載)

新入生に向けた春休みの課題



③ メディアコントロールの啓発

SNSの利用については、社会的に問題がクローズアップされており、本中学校区でも同様の課題があるととらえている。児童生徒がメディアをコントロールできるよう、また、家庭と連携した取組ができるよう、毎月15日をノーメディアデーとして設定し、矢部中校区の小中学校の児童生徒が、家庭でメ

P T A 挨拶運動



ディア使用の時間について目標を設定しながら、頑張りカード等を各校で作成し、実践と啓発を行った。9月の早ね・早おきいきウィークでは、就寝時間や睡眠時間、生活リズムへの意識づけも行い、親子で取り組むことで啓発にもつながった。また、PTAや児童会・生徒会が中心となった挨拶運動を実施した。

さらに、先述の中学校体験入学時に、春の安心ネット新学期一斉行動事業を利用し、保護者向けにSNS啓発講座を設けた。保護者の感想からは「中学校入学を迎え、心配な点もあったがSNSの現状や課題を具体的に知ることができてよかった。」などの評価をいただいた。

ノーメディアの取組については実務者会と中学校区養護教諭部会が連携して取り組んだが、校区全体で組織立てて連携ができたことで、今後も継続して学びと育ちの土台づくりに取り組みやすくなった。

④ 計画的な評価等の実施による実態把握と分析・活用

実務者会が中心となって、Q-Uテスト、見つけカード、心のアンケートを活用し、取組を計画的に評価していった。

特に見つけカードはすべての学校で毎月実施し、学校生活への満足度を測ると同時に、個別の悩みや相談事もアンケート形式で記入できるようにしており、いじめや悩みの早期発見・解決に活用していった。

ノーメディア取組頑張リカード

みんなの 9月調 徳っ子いきいき大作戦 ()年 名前 ()

◎みんなのテレビやゲーム、スマホやタブレットの使い方を生活リズムを見直して、けんこうな体づくりをしよう！
～いじめや悩みは相談員、テレビやスマホ・タブレット・ゲームを消して、心と体の健康をしよう！～

●ノーメディア (テレビ・ゲーム・スマホ・タブレットをつかわない) コースを選んで、チャレンジしよう！

① 1週間の勉強はテレビ・ゲーム・スマホ・タブレットをけず (レベル1)
② テレビ・ゲーム・スマホ・タブレットあわせて1時間まで (レベル2)
③ 学校から帰ったらテレビ・ゲーム・スマホ・タブレット (レベル3)
④ 1日テレビ・ゲーム・スマホ・タブレット (レベル4)
⑤ その他 (わが家のノーメディアルール) (くわしく)

今週2年9月	9/15 (火)	9/16 (水)	9/17 (木)	9/18 (金)
1 けず、はやめできたかな？ どちらかに○	できた	できなかった	できた	できなかった
2 ノーメディアにたどり着いたかな？ ①チャレンジしたコースにのをつけては、 ②できたかな？どちらかに○ できる日だけでも、チャレンジしてみよう。	えらんだコースは？ ①②③④⑤	えらんだコースは？ ①②③④⑤	えらんだコースは？ ①②③④⑤	えらんだコースは？ ①②③④⑤
3 ノーメディアの時間、どんなことをしてすごしましたか？	読書	読書	読書	読書
4 はやくおたかな？ ①どちらかに○ ②あとにはいった時刻	できた	できなかった	できた	できなかった
じぶんのかんどう	ブロックで113 1377777			
おうちのかたからひとこと	おうちのかたからひとこと			
先生がめだたしるし すてきなぞう！				

いじめや悩みの早期発見・早期対応をねらった見つけカード (小中合同で実施し、取組を評価する。)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. あなたは学校が楽しいですか。 ア はい イ いいえ												
2. あなたは誰かに嫌なことを言われたりされたりしますか。 ア いいえ イ はい												
3. あなたは誰かに物を壊されたり隠されたりしますか。 ア いいえ イ はい												
4. あなたはペアや班で活動するとき、入りづらいと感じることがありますか。ア いいえ イ はい												
5. あなたは誰か (友だち、先生、親) にほめられたことがありますか。ア はい イ いいえ												
6. あなたは SNS 等でのトラブルにあっていますか。 ア いいえ イ はい												
7. あなたは目標をもって学校生活を送っていますか。 ア はい イ いいえ												
8. あなたの学級はいごちがよいですか。 ア はい イ いいえ												
9. あなたは今相談したいことがありますか。 ア いいえ イ はい												
担任印												

()年 ()組 ()号 氏名【 】

(5) 家庭・地域への啓発

P T Aの会合や学校からの通信等で子どもたちによるいじめ防止推進事業の啓発を行うとともに、各学校で開かれるP T A教育講演会は、いじめや人権問題、SNS利用上の課題等をテーマにして実施した。(令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため未実施)また、令和元年度末には、本研究について広く周知・理解を図ることをねらって、リーフレットを作成した。これを活用して、各小中学校に設置されている学校地域連携協議会において説明を行った。

学校地域連携協議会における本事業の周知



家庭・地域への周知・啓発用のリーフレット

令和元・2年度熊本県教育委員会指定 子どもたちによるいじめ防止推進事業 山都町立矢部中学校区1年目の取組

1 児童生徒同士をつなぐ(人間関係)

学習活動づくり
各教科等の授業において、互いの向きや可能性を考慮できる学習活動づくりを行い、共に学び合うことへの充足感を高め、いじめ防止などの課題に向き合い、協働・解決へと働く行動力を高めよう。

<取組> ○意図の時間の充実
○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
○生徒に生かされる人権学習の展開

○互いの学びや努力を認めることのできる環境
○小中合同リーダー研修の企画&実施

2 教員と児童生徒をつなぐ(信頼関係)

集団づくり
よりよい人間関係を築くための活動の場を創出し、児童生徒が互いの存在や価値を認め合う態度を養うことで、いじめ問題ははじめ身の回りの問題を自主的・協働的に解決していく集団をつくり出します。

<取組> ○児童会・生徒会活動の活性化
○児童会・生徒会活動の活性化
○児童会・生徒会活動の活性化

研究主題 「自分や他の人の大切さを認め、豊かに学び合う児童生徒の育成」
～いじめ防止につながる集団づくりと学習活動づくりの充実を通して～

3 組織体としての教職員同士のつながり(一貫団結)

家庭・地域との連携
子どもたちによるいじめ防止の取組によって学校が心地良い魅力ある場所となるよう、教職員同士のつながりや、学校と家庭、地域、関係機関とのネットワークを活用し、中学校区における取組を協定的に受け止め、変えていく環境づくりを目指します。

<取組> ○小中連携組織をつくる
○小中合同リーダー研修の企画&実施

4 学校と家庭、地域・関係機関をつなぐ(連携・協働)

いじめ防止スローガン「矢部っ子いじめゼロ宣言」
○明るく元気のいい声であいさつしよう
○相手の気持ちを考えよう
○友達の良いところを見つけて伝えよう

○学校支援協議会等と連携し、いじめ防止の取組を高める
○学校の取組や生徒の活躍を積極的に情報発信

2 各学校の取組

(1) 矢部中学校の取組

① 「明るく元気なあいさつをしよう」の取組

生徒会主催によるあいさつ運動を行っている。委員会ごと、部活動ごと、学級ごとなど形態を変えながら、全校生徒が月1回あいさつ運動を行うように企画している。また、昼の放送であいさつ運動の様子を振り返ったり、「あいさつマイスター」を発表したりして、次の挨拶運動へとつなげていった。

代議員による挨拶運動



② 「友達のよいところを見つけて伝えあおう」の取組

代議員会が中心となって、毎月ありがとうメッセージカード作成している。特に心に響いたメッセージを昼の放送で発表した。代議委員会を中心に全学級に呼びかけ、月ごとに学校生活の中で、授業時間や休み時間、部活動に至るまでどんな些細なことでも、自分のために教えてくれたり、手伝ってくれたりしたことを、〇〇さんへというメッセージカードに記している。これによって、自分に対する周りの声掛けや気遣いに感謝する心を育てるだけでなく、自分あてのメッセージを見つけることで認めてもらったり、支えになったりしていることに気づき、自己有用感を高めることにつながったと考える。

友達のよさに気づき、発信する
ありがとうカード



本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入学式が新入生と保護者のみの参加で行われ、在校生は新入生歓迎のことばを発表する生徒会長のみが参加する式となった。また、入学して3日後には臨時休校となり、1年生には新しい中学校生活を送る上では不安なスタートとなった。そんな1年生の不安を少しでも解消するため、代議委員が企画して1年生への歓迎のメッセージが送られた。

新入生へ上級生が歓迎メッセージをおくる様子



6月の学校再開から数日後の1年生教室に、2・3年生の代議委員が、1人1人の思いを書いたメッセージカードを持って1年生へ手渡した。そこには自分たちが1年生の時、どんな思いだったかを想像し、少しでも不安が解消するようと温かいメッセージが書かれていた。なお、後日上級生には、1年生から返事が返ってきた。

上級生からの歓迎メッセージカード



新入生からの返信メッセージカード



③ 「相手の気持ちを考えて発言・行動しよう」の取組

生徒総会で生徒会長が「いじめや差別のない楽しい学校にするために」をテーマに基調提案を行った。1月に行われた全国いじめ問題子供サミットでの経験を生かして、今矢部中学校で行われているいじめや差別をなくすためのリボン登校の呼びかけや、ありがとうメッセージカードの取組を継続していくこと、みんなでいじめについて考える場を設

リモート生徒総会での基調提案



け、見て見ぬふりをしないことがいじめ防止につながることを伝えた。その思いを受けて全校生徒が「自分のいじめゼロ宣言」をカードに書き、生徒会スローガン「ONE School」にちなんで「ONE」の文字の形にして掲示をした。全校の気持ちを一つにしたいという思いが込められている。

各自の「自分のいじめゼロ宣言」を掲示した様子



本年度は、コロナウイルスの関係で集会活動が制限されている中毎年定例の「生徒総会」をリモートで実施することになった。画面越しではあるが、生徒会長からいじめ防止に向けた強い思いが伝えられた。

④ 心の絆を深める5か条

矢部中学校では「心の絆を深める5か条」の第5条を生徒会の呼びかけにより各学級で考え、作成した。

- 第1条 笑顔であいさつをしよう
- 第2条 相手の目を見て話を聞こう
- 第3条 誰にでも自分から声をかけよう
- 第4条 自分の思いは相手に直接伝えよう
- 第5条 (各学級で決定し、文字を入れる)

【各学級で決定した第5か条の例】

- ・互いを認め合い、向上しよう
- ・見て見ぬふりをするのはやめよう
- ・誰にでも平等に接しよう
- ・相手や仲間をリスペクトしよう

⑤ 「ONE School 週間」

令和2年度は、各委員会の活動を「矢部っ子いじめゼロ宣言」とつなげる取組を行うことで、さらに全校生徒の意識の向上を図った。

矢部っ子いじめゼロ宣言と関連付けた生徒改革委員会の取組

委員会	いじめ防止におけた取組 ～あいさつ・伝え合う・思いやり～	いじめ防止の取組の意味づけ ～あいさつ・伝え合う・思いやり～
執行部	生徒総会の時に全校生徒に書いてもらったいじめゼロ宣言の掲示	いじめゼロ宣言の掲示をすることで、お互いの決意を伝え合う【伝え合う】
代議	三秒礼コンテスト ありがとうメッセージカード	あいさつの意識向上【あいさつ】 お互いの思いを届けよう【伝え合う】
学習	図書室の環境整備 読書推進ポスター作成	読書を推進し、自分の世界を広げたり想像力を身につける【思いやり】
整美	美化コンクールの運営 靴箱や教室の棚点検	教室など学校の環境を整えることで、学校への感謝の気持ちを表す【思いやり】
保健	ハンカチ忘れ0大作戦	コロナウイルスを流行させないという相手意識を身につける【思いやり】
体育	自力登校チェック (目標70%) 大会紹介	学校全体で大会において励ますことができる【思いやり】
給食	給食の後片付け点検	後片付けの時にかごをきれいに並べたり、あいさつをして感謝を表す【あいさつ】
放送	ありがとうメッセージカードの紹介 など各委員会の取組の発信	メッセージカードの内容などを紹介することでお互いの頑張りを伝える【伝え合う】

⑥ 生徒集会・ハートフル集会・生徒会交流会

生徒集会にて、生徒会がいじめ問題について取り組んできたことの報告や、いじめをなくすための呼びかけを行ってきた。また、昨年度から、年に1回いじめ問題について考えるハートフル集会を開いてきた。昨年度は矢部中校区小中リーダー宿泊研修の内容を伝えるとともに「いじめとは何か」について一緒に考えた。本年度は、2年間の取組を振り返るとともに、いじめ防止に向けて全校生徒が一緒になって取り組むことの大切さを考え、ハートフルメッセージカードを作成し、いじめ防止を全校生徒で訴えた。

また、本年度8月に開催された上益城郡生徒会交流会では、「矢部っ子いじめゼロ宣言」に基づいた活動紹介や全国いじめ問題子供サミットに参加して得られた学びを他校に紹介するなどして、いじめ防止について発信している。

生徒集会の様子

矢部っ子いじめゼロ宣言②

友だちのいいところを見つけて伝えよう②



学年人権集会で作文発表をしました。

温かい返しの発表が絶え間なく続きました。

⑦ ボランティア登録制度

「地域に貢献し、地域に愛される矢部中」をキャッチフレーズにして生徒会が「ボランティア登録制度」を呼び掛け、生徒全員が登録している。これはボランティアという形で生徒が主体的に地域と関わり地域から声をかけていただくことで、生徒が地域にとって大切な存在であることに気づき、自己有用感が高まることもねらいとしたものである。

先述の地域連携協議会で、生徒の自己有用感の高まりがいじめ防止や不登校の予防にもつながることを説明し、協力体制を築いた。2年間で地域のイベントの手伝いや小学校の学習ボランティア、町図書館や児童館でのクリスマス会補助等を通して異年齢交流とボランティアの実績を積み重ねてきている。

クリスマス会ボランティア（町立図書館）



クリスマス会ボランティア（児童館）



卒業した小学校での学習支援ボランティア



⑧ 公開授業

令和2年11月20日に3年2組において学級活動の授業を公開した。「進路の悩みや不安を解決しよう」を題材に、生徒全員が悩みや不安の解決に向けて真剣に考え、発表する姿が見られた。学級の支持的風土の高まりが感じられ、参観者からも「全員が自分のこととして捉え、考えることができていた。」「共感的な態度が育まれており、互いに発表しやすい雰囲気を感じられた。」という感想をいただいた。

公開授業の様子

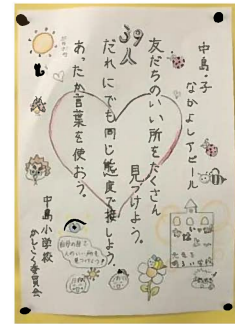


(2) 中島小学校の取組

① 児童会を中心とした他者理解を進める取組

児童会を中心に「なかよしアピール」を作成した。大切にしたいと考えた「友だちの良いところをたくさん見つけよう」「だれにでも同じ態度で接しよう」「あったか言葉を使おう」の3つのアピールを決めた。このアピールを児童集会で提案をし、ポスターを作って配付した。例年、提案だけで終わっていたが、今年度は、それぞれのアピールを月目標に生かし、実践につながるようにしている。また、なかよしアピールの「友だちの

「なかよしアピール」



良いところを見つけよう」を具体化するために、カードを書き、児童同士で良いところやありがとうという気持ちを伝え合う「友だちは宝」運動に取り組んだ。この活動を通し、認めたり、認められたりする心地よさを感じてもらおうと同時に、友だちに気持ち良い接し方ができるようになること

「友だちは宝」運動



ことをねらった。この活動は毎年行われ、学年同士・縦割り班など、年によって伝え合い方を工夫してきた。また、今まで取り組んできたものも掲示し、いつでも見られるようにしている。

② 異学年交流の推進

上述の「友だちは宝」運動に加え、月に1回「あいさつのバトン」と称してあいさつ運動を行っている。登校後に児童玄関に並び、後から来た児童に大きな声で挨拶を行っている。月曜が5・6年生、火曜が3・4年生、水曜が2年生と5年生、木曜が1年生と6年生、金曜日が児童会と係を決め、「バトン」を作って引き継ぐよう工夫した。並んで挨拶をする側の児童の声に対して、登校してきた児童の挨拶に課題が見られていたので、今年は、「先取りあいさつ」を合言葉に取り組んでいる。

「あいさつのバトン」活動



また、異学年間の児童同士がたくさん話をし、仲良くなれることを目指し、月1回、縦割り班での「なかよし給食」を行っている。たくさんの先生方とも話ができるように、食べる場所も毎月変えている。早く食べ終わったときには、班長のリードにより、「しりとり」などのレクレーションで親睦を深めている。

縦割り班での「なかよし給食」



さらに、学期に1回程度、昼休みに「わくわくタイム」を行っている。ドッジビーやジャンケンピラミッドなど、縦割り班ごとに対抗するゲームを計画し、1年生から6年生まで一緒に遊んでいる。9月のプール納めでは、5・6年生がペットボトルで作ったイカダで、紅白に分かれた競争を行い、交流を深めることができた。

全児童参加の「いかだリレー」



(3) 矢部小学校の取組

① 児童会を主とした他者理解を進める取組

(「くん」や「さん」をつけて呼ぼう運動強化月間)

昨年度からの課題として、児童らの間で友達を呼ぶときに、呼び捨てで呼んでいることが多かった。特に、本校では高学年が呼び捨てで友達を呼んでいる様子を下級生がまねをするということがあったり、自然と言葉遣いが悪くなって乱暴な言葉や相手を傷つける言葉になったりすることがあった。そこで、児童会で「くん」「さん」付けに取り組んだ。1日の終わり、帰りの会などで「くん」や「さん」をつけて友達を呼んだかどうかを確認し、できた児童数を表に記入していった。活動終了後は人数を集計し、放送でよくできていた学級を紹介することで、より意識できるようにしていった。低学年については意識して取り組む児童が多く、一定の効果を感じることができたが、高学年の中にはなかなか今までの習慣が抜けないところもあり、今後も継続して取り組んでいく必要がある。

日	できた人数
9/2	人
9/3	人
9/4	人
9/5	人
9/6	人
9/7	人
9/8	人
9/9	人
9/10	人
9/11	人
9/12	人
9/13	人
9/14	人
9/15	人
9/16	人
9/17	人
9/18	人
9/19	人
9/20	人
9/21	人
9/22	人
9/23	人
9/24	人
9/25	人
9/26	人
9/27	人
9/28	人
9/29	人
9/30	人
合計	人

② 児童会を中心としたきずなを深める取組

児童会執行部が中心となって、生活目標である「元気にあいさつをしよう」に合わせてあいさつ運動を実施した。矢部小学校では、先生に対してはあいさつをするが、友だち同士であいさつをする児童が少なかった。児童一人一人が、友だち同士であいさつを行うことで相手を大切にするとともに、元気に1日を過ごしてもらうために取り組みを行った。実施にあたっては、スクールバスの関係もあり、児童会の中でも登校時間にばらつきがあるため、実施できる児童で行った。初めは児童会の児童も緊張していたが、次第に大きな声で挨拶ができるようになっていき、それに合わせて他の児童もしっかりあいさつができるようになってきた。今後は友だち同士であいさつを交わし合うことができるよう活動を進めていきたい。



児童会執行部によるあいさつ運動

また、運動会をただの行事で終わらせるのではなく、自分たちが主役であること・同じ団員で力を合わせることを意識させるため、運動会のスローガンを考えてもらえるよう、各学級に呼び掛けた。各学級から出てきた意見をもとに、委員会の代表者で話し合いを行い、自分たちでスローガンを決定した。その後、6年生がスローガンの横断幕を作成し、より自分たちでつくりあげたという意識を持てるようにした。

令和2年度運動会スローガン



(4) 潤徳小学校の取組

① 他者理解を進める取組

「VS黒板」という名称で、毎月ホワイトボードを使って、生活のめあてや月行事、誕生月の人を紹介している。児童が毎日見ることができる場所に置き、運動会や学習発表会等の学校行事の話題等も書いている。

また、階段の広い掲示板に「心の木」を設定し、友達のいいところを見つけ紹介する活動を行った。掲示板に大きな木をイメージしたオブジェを準備し、各自が見習いたい行動をした人やいいところを記入したシートを児童会が掲示した。自分の名前を見つけて喜んだり、友達の知らなかった一面を知ったりする児童が多かった。具体的にどんな行為が友達を喜ばせたり、安心させたりしているのかを知るきっかけにもなった。下級生から目標として紹介されたことで、上級生として意識が向上した児童もいた。

② 異学年・異年齢交流の推進

体育館に全校生徒が集まり、縦割り班ごとに給食を食べた。異学年の人たちと食べることで、いつもと違う話題で楽しい給食になった。6年生は1・2年生の準備を手伝ったり、5年生は、全学年の給食配膳用の台を準備したりし、上学年としての意識も高まった。

また、全校児童で遊ぶ「みんなで遊ぼう」を企画し、縦割り班対抗で紙飛行機大会を行った。

1日目：大会の説明と紙飛行機作り。

2日目：競技1・各自で作った紙飛行機を体育館のステージから飛ばし、飛んだ距離に応じたポイントを縦割り班で合計した。

3日目：競技2・上級生が大きい紙で作った紙飛行機を班員がリレー形式で飛ばし、合計の距離を競った。みんなで楽しい時間を過ごすことができた。

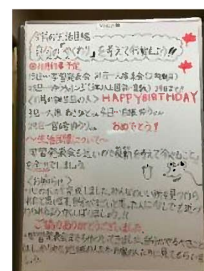
さらに、地域や学校行事でお世話になっている地域の方々と交流給食を行った。登下校や地域の活動で私たちを見守っていただいている方々との交流で、児童の温かい前向きな言葉が増え、優しい気持ちになった。

③ 児童会の取組

全校児童が気持ちの良いあいさつをし続けられるように、児童会がバスの時間に合わせ、校門であいさつ運動を行っている。秋から冬は校門に落ち葉が多く、その清掃も行い、みんなが気持ちよく登校できるようにしている。

また、運動会は、毎年各学級から運動会スローガンの案を募り、児童会で話し合っていて決めている。去年は「あきらめない 心一つに 限界突破」、今年「一心同体 全力でつなげ 心のバトン」となり、思い出に残る運動会になった。

VS黒板



心の木



全校給食



「みんなで遊ぼう」



「交流給食」



児童会「あいさつ運動」



運動会スローガン



Ⅲ 研究のまとめ

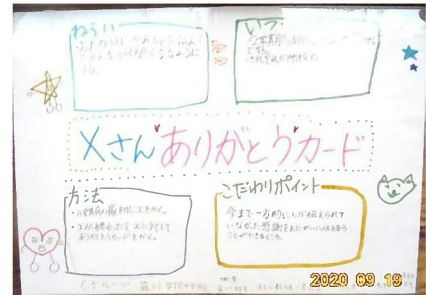
1 仮説1の検証

仮説1 集団づくり

学校生活において、よりよい人間関係を広げ深める活動の場を設定すれば、児童生徒が互いの存在や価値を認め合う態度が高まり、いじめ問題をはじめ身の回りの問題を自主的・協働的に解決していく集団を育むことができるであろう。

仮説1では、児童会生徒会活動の活性化、心の居場所としての学級・学校づくり、学校間・校種間の交流を主に行い、計画的な評価等を実施して取組の評価・改善を図る研究実践に取り組んだ。特に児童会生徒会交流を通してつくられた、「矢部っ子いじめゼロ宣言」に基づき、各校で集会活動や様々な企画・実践が行われた。今年度の児童会生徒会リーダー研修では、さらに内容が工夫され、児童生徒自身が共通の取組を考えようと話し合いを行い、「Xさんありがとう」カードという形で共通実践化へとつなげた。子どもたちからは「自分のことをちゃんと見てくれる人がいてとてもうれしい気持ちになりました。Xさんへの手紙をもらって嫌な気持ちになる人はいないし、クラスの雰囲気が前よりも良くなった気がします。」といった感想も聞くことができた。このように、子どもたちがいじめ防止に向けて企画・実践を重ねたことを通して、主体性が生まれ、いじめ防止の機運の高まりにつながったことは大きな成果である。

Xさんありがとうカード

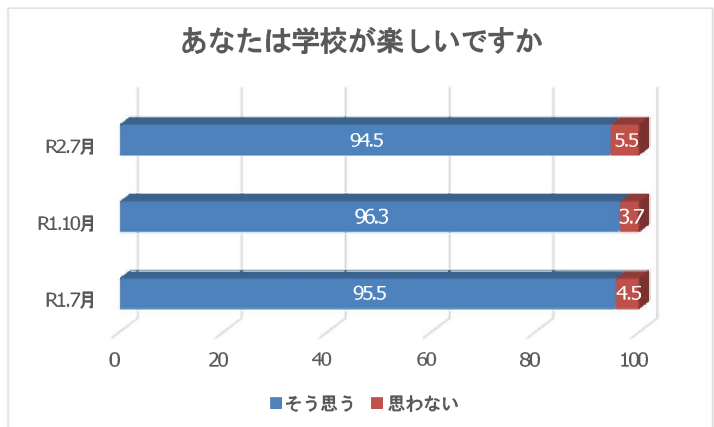


これらに関連する、諸調査結果からのまとめを以下に示す。

(1) 見つめカードから

毎月末に実施した「見つめカード」の結果からは、「学校は楽しい」と答えたこと児童・生徒は約95%程度である。

見つめカードの集計結果（小中学校の合計）



この見つめカードは、児童・生徒の悩みや不安の早期発見・対応を目的としており、それらの対応が組織的になされたことも一つの成果である。

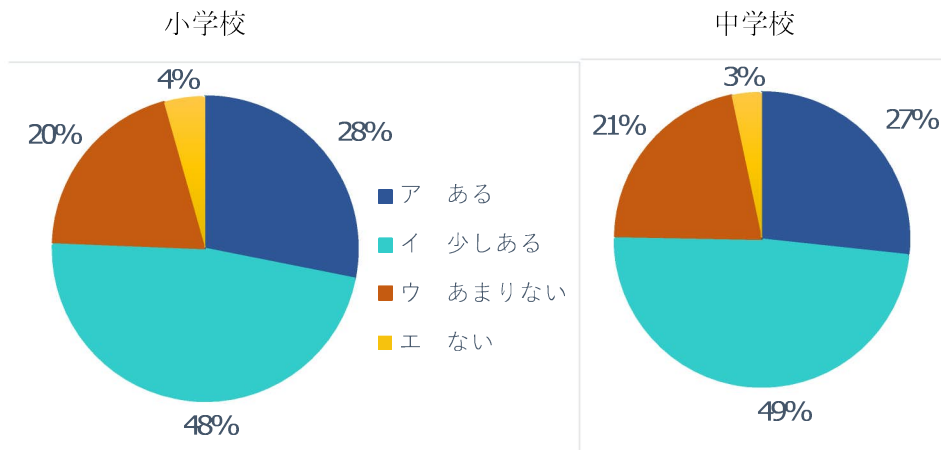
(2) 心のアンケートから

令和元年12月実施の心のアンケートから、2つの質問項目についてまとめた。まず、「授業や学級の役割など、学校生活の中で誰かの役に立っていると感じる」（自己有用感）については、小学校（3校合計）・中学校共に76%の児童生徒が肯定的に回答し

ており、いずれも県平均（小学校74％，中学校72％）を上回った。

このことから、仮説1における互いの存在価値を認め合う態度の高まりを示しているといえる。

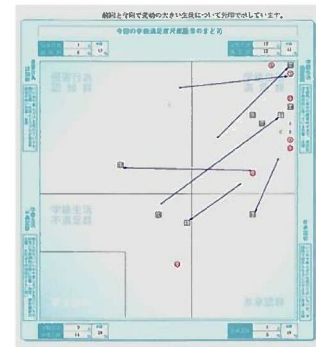
令和元年度心のアンケート結果 「役に立っていると感じる（自己有用感）」



Q-U調査結果の一例

(3) Q-U調査結果から

Q-Uの結果からは、学級生活満足群の方向に顕著にシフトしていく学級も見られた。他者を受け入れ、自己を開示しやすい支持的風土が形成された成果がうかがえる。



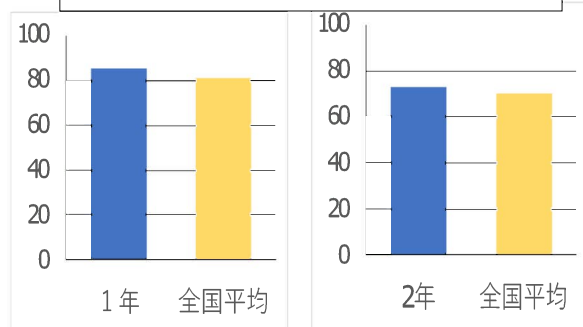
(4) 矢部中学校県学力調査 i-check から

学級の絆に関する項目（「今のクラスが好きですか、今のクラスはいいところがある」等）では、矢部中学校では肯定率が2学年とも全国平均を上回った。Q-Uの結果と同様に、学校生活への満足感について、より高い傾向にあることが分かる。

i-check 学級の絆に関する項目結果

(5) 矢部中学校学校評価アンケート結果から

令和2年9月に実施した、矢部中学校の学校評価（生徒用）において、「矢部中学校では、いじめや暴力などのない学校づくりに取り組んでいます」という項目で、割合にして94％の生徒が肯定的に



回答し、高い数値を示した。また、「わたしは、いじめや差別をなくすために学んだり、自分にできる行動をしたりしています」という項目でも肯定的に回答した生徒の割合が92％という高い数値を示し、生徒会を中心とした取組が全校生徒に浸透し、生徒の意識や行動の高まりへとつながったととらえている。

2 仮説2の検証

仮説2 学習活動づくり

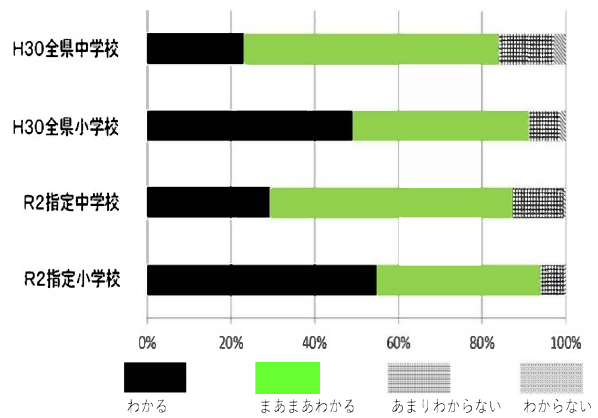
各教科等の授業において、児童生徒が互いのよさや可能性を発揮できる学習活動づくりを行えば、児童生徒がともに学び合うことへの充足感が高まり、いじめ問題などの課題に向き合い、協働して解決していく行動力が高まるであろう。

仮説2では、いじめの予防や未然防止につながる学習活動づくりや学習に対する効力感（わかる・できる）の向上につながるよう、各教科等の授業改善や家庭及び小中学校が連携した学びと育ちの土台づくりを主とした研究・実践に取り組んだ。特に、小中学校が学習における7つの共通実践に取り組み、学習規律と支持的風土を保ちながら活動できたことに成果を感じている。なお、これらに関連する諸調査結果からのまとめを以下に示す。

(1) 心のアンケートから

「授業がわかる」という質問項目では、矢部中学校で87.3%、3つの小学校では94.1%の児童生徒が肯定的な回答をしている。これは、いずれも県平均を上回っており、学習における7つの共通実践事項とともに、各教科等の授業改善が図られ、学習に対する充足感につながっていると捉えている。

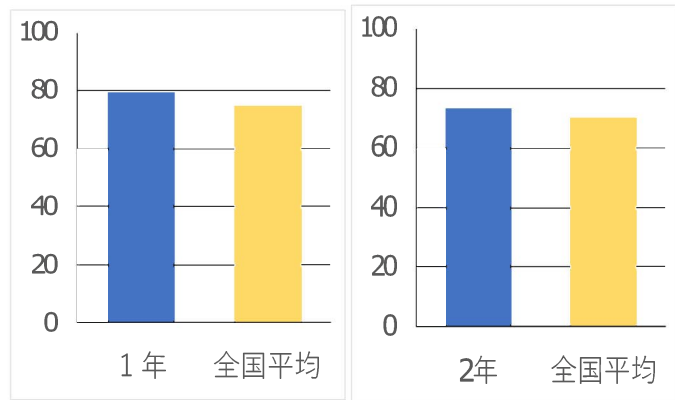
Q3 授業がよくわかる。



(2) 矢部中学校県学力調査 i-check から

学習習慣についての項目（好きな教科や授業がある、計画を立てて学習している、家庭学習の時間等）について、矢部中学校では肯定率が2学年とも全国平均を上回った。メディアコントロールをはじめとした生活習慣、学習習慣づくりの取組の成果の一つととらえる。また、いじめの予防や未然防止につながる学習活動づくりとして、毎月19日の矢部中教育

i-check 学習習慣に関する項目結果

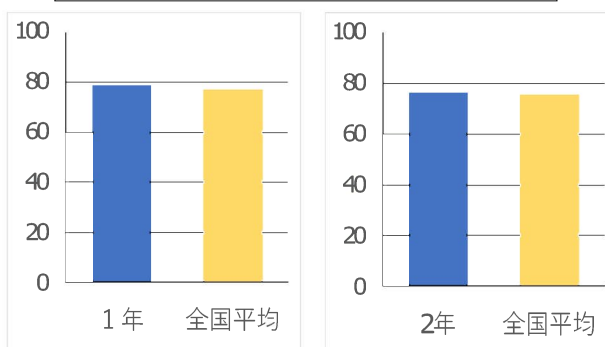


の日にノーメディアの取組とともに「親子で道徳」の取組も行った。「熊本の心」を家庭で親子一緒に読んでもらい保護者啓発にもつながった。「とても良いお話しでした。通潤橋については地元の名所でありこれまで学ぶ機会にはあったはずなのに、知らなかったこともあり、子どもとともに驚きました。」「種山石工たちの村人の役に立ちたいという思いに心が動きました。人のぬくもりが感じられる通潤橋が山都町にあることに改めて郷土の誇りを感じました。」などという感想をいただいた。

さらに、社会参画についての項目（お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加

しているか等)についても、2学年とも肯定率は全国平均よりも高く、生徒会が主体となったボランティア登録制度が徐々に浸透し、子どもたちが地域に貢献することで地域から自己有用感を得ることにつながっている。小学校の学習支援ボランティアを行った生徒は「今年初めて学習ボランティアに参加して今まで先輩に教えられる側だったけど、今年は教える側で恩返しができて良かった。また来年も参加したいです。」「後輩たちが喜んでいるところを見られてよかった。小学生の役に立てるなら、是非やりたいです。」という、感想を述べていた。

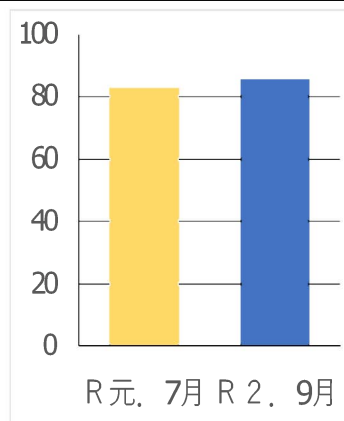
i-check 社会参画に関する項目結果



(3) 矢部中学校学校評価アンケートから

「対話的な学び」の項目（友達と意見や考えを出し合い、自分の考えを深めている。）において、肯定的に回答した生徒の割合は、昨年度よりも伸びが見られた。仮説2における、各教科等の授業において、児童生徒が互いのよさや可能性を發揮できる学習活動づくりが実践され、児童生徒の学び合うことへの充足感の高まりにつながってきている。仮説2でねらったいじめ問題などの課題に向き合い、協働して解決していく行動力へつながるような、各教科等の授業づくりがなされた結果ととらえている。

学校評価アンケート
「友達と意見や考えを出し合い、自分の考えを深めている」



3 今後の研究の方向性

本研究における主な課題とその対策も踏まえ、今後の研究の方向性を以下に示す。

- 小中学校の連携組織を、今後も持続可能なものとして、校区全体で児童生徒を育成していく必要がある。そのため、本事業の研究組織を見直し、小中学校の連携組織と地域との連携について再編する。また、校区全体で、いじめ防止をはじめとした豊かな心の育成や、確かな学力並びに健やかな体の育成につなげる。
- 小中学校の児童会生徒会が主体となった実践については、リーダーの育成や、中1ギャップの解消、児童会生徒会活動の活性化等につながる。したがって、児童生徒、教職員ともに継続したいと考えている。そのため、児童会生徒会交流については、児童会生徒会が主体性をさらに發揮できるよう、工夫・改善を図りながら今後も継続していく。
- メディアの所持率、使用時間から小・中学校とも様々なネットトラブルに巻き込まれる危険性が依然としてある。そこで、家庭や地域との連携ならびに小中学校の連携について、連携組織の再編成を行う。メディアコントロールの啓発や基本的な生活習慣・学習習慣の形成等学びと育ちの土台づくりを校区を挙げて推進する。

参考文献

- | | |
|--------------------------------|--------------|
| ○小学校学習指導要領 | 文部科学省 |
| ○中学校学習指導要領 | 文部科学省 |
| ○生徒指導リーフ「絆づくり」と「居場所づくり」Leaf. 2 | 国立教育政策研究所 |
| ○学級・学校文化を創る特別活動（中学校編） | 国立教育政策研究所 |
| ○子どもたちによるいじめ防止推進事業 研究紀要 | 平成30年住吉中学校区 |
| ○子どもたちによるいじめ防止推進事業 研究紀要 | 平成30年南小国中学校区 |

おわりに

山都町の矢部中学校区では、令和元・2年度の2年にわたり、熊本県教育委員会より「子どもたちによるいじめ防止推進事業」の指定を受け、3小学校と1中学校が地域や行政の協力を得ながら研究・実践に取り組んでまいりました。

時代は平成から令和に移りながらも、いじめを苦にして自殺する痛ましい事案が起こっていることなど、いじめ問題はその発生件数、内容からも喫緊の課題であり、全県下でいじめを防止する取組が展開されています。

本校区においても、各学校で独自の取組を進めてまいりましたが、今回の指定により、研究・実践を進めたことは小中学校が連携を深め、校区全体でいじめ防止の機運を高めた点で成果を挙げたと確信しています。特に、小中合同のリーダー研では1年目の宿泊研修がきっかけとなり、矢部っ子いじめゼロ宣言の策定と各学校での集会活動の活性化につながりました。

さらに、コロナ禍においても、どうにかしてリーダー研修をしたいという子どもたちの思いもあり、2年目も開催することができ、研修内容も、各学校の1年間の取組を評価し、その後の改善につなげられる深まりのあるものとなりました。このように、子どもたち自身が考え、実践事項を定め、取組を振り返り改善へとつなげていく過程はまさに自主性が育まれる過程であり、本事業が子どもたちにより推進されたことを実感できる場面でした。

また、月に1回小中学校が共通のアンケートを実施することで、我々教師にとっても、子どもたちのわずかなサインにも気づき、丁寧に関わっていく材料となり、いじめの早期発見・早期対応の意識の高まりにつながりました。

最後になりますが、これまでご指導・ご支援を賜りました熊本県教育委員会、上益城教育事務所、その他多くの関係機関の皆様にご心から感謝申し上げますとともに、今後ご指導・ご助言を賜りますようお願いいたします。

山都町教育委員会 教育長 井手 文雄
山都町立矢部中学校 校長 富士川 晶三
山都町立中島小学校 校長 梅野 力
山都町立矢部小学校 校長 田中 元
山都町立潤徳小学校 校長 大西 克彦

